

# MMQC ニュース

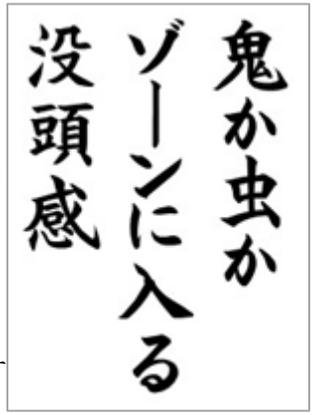
Vol. 181  
令和7年1月1日(水)  
発行:(有)エー・エム・アイ

**MMQCは15周年に!**  
今年(乙巳(きのとみ))で「努力を重ね、物事を安定させていく」という年と言われています。弊社は7月に創業30周年となり、三男に事業承継の予定です。私自身は老害に心がけてスローライフへ移行するつもりです。  
栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

## 「〇〇の鬼」を大きくする

右掲は名古屋のお客様から「社内では達成感を得るために『鬼を大きくする』と言って」と教えて頂いたことを詠んだ川柳。一般的に「自己肯定感」を持つことによって「自尊感情」(セルフ・エスティーム)が生まれ、人は次第に「自己実現」に向かって行くと言われています。つまり、会社員であっても「道」を極めて行く存在になるのです。勿論、周囲との関係がベースなのですが、「自己受容」をして「自己信頼」が出来るようになり「自己価値」を高めることで他者より抜きん出た存在になり、ついには周囲から一目を置かれる存在になるのです。この過程を名古屋のお客様は「鬼を大きくする」と言っているそうです。結果的には「〇〇の鬼」と呼ばれるようになるということです。



私たちの世代では「バカと呼ばれるまでトコンやれ」と教えられました。何故なら、何事も未知の状況から始めるので、幼子のように徐々に活動範囲を広げることが大切ですが、これが意外に難しいのです。周囲の方々が「池の魚」状況では、何かにチャレンジしようとしても「捨て育ち」になり、「一人前になりたい」という若い志を冷やかに見るのです。従って、一步踏み出すことが大変であり、そこで躓かず歩き始めるという意外に高い「壁」があるのです。この「壁」を突破すると次々と経験を積むので「流れ」(フロー)が出来て、徐々に自信が高まって「勢い」がついてくるのです。この状態になると周囲も注目し始めて「〇〇なら□□」と認識して「〇〇の鬼」と育って行き、加速がつくと「夢中」になって行くようになり生産性が上がるので「達成感」が高まり、しかも、「ゾーン」という時間の流れが気にならなくなる「没頭」状態なのです。少し卑近な例になりますが、私は三波春夫さんの「俵星玄蕃」という約8分の歌謡楽曲が好きなのですが、カラオケでリクエストが頂ける方がいて、その方は「聞き入って短く感じる」とおっしゃいますが、残念ながら少数派なのでリクエスト時だけです。私には気持ちよく聞いて頂けるのもゾーンのひとつと思います。

## 「イメージ」を共有する事から始める



左掲は故船井先生がイソップ物語から「レンガ積み之法則」として作業能率でルール化されたものです。私のサラリーマン時代の経験ですが、修理工場の改善で3ヵ月で2回目標を達成する営業所があり、夕方に協力業者から委託の車検整備が入り、残業のパンを食べながら遅くまで頑張っている状況であり、この工場の責任者は「栩野さん、この会社で頑張る奴はアホやで」という状況だったのです。私は「今に見てる改心させてやる」と心に誓って、改善策として自社の車検に焦点を当て、自社車検の作業枠を設定したのです。この枠を埋めるべく、車検対象車のリストをつくり営業の方の協力も得てテレポ作戦を展開したのです。勿論、車検の予約で枠を埋めるようになり、しかも、営業の方も新車の話を得ることで両者にメリットが出たのです。その後、引取り納車を効率化するようになり、ほぼ定時に終了しても目標を達成できて「パン屋」が来なくなったのです。勿論、毎月、目標を達成するようになり、その後、工場の責任者は労組の委員長になって活躍されたという事例を経験したのです。

### ワンポイント・アドバイス

「ゾーンに入る」と言いますが、例えば、バッターはボールが止まって見えるようになると言います。つまり、時間の進みが遅くなるのですが、その状態は長くはなく、通常は「フロー」で悪戦苦闘するのです。つまり、練習を始めて「フロー」が出来て、自信がついて得意球が止まって見える「ゾーン」状況になるのです。この得意球つくりを「鬼」つくりと呼ぶのです。



誰でも「イメージ」が付けば「行動」に移しやすいのです。しかし、「楽しんで儲けたい」という甘い心があるのも事実です。現状は、協力業者の車検代行するだけで3ヵ月に2回目標達成できるという甘い状況に安住していたのです。この方が改善指導を受けて下さって、しかも、営業の方を巻き込んで自社車検に取り組み、部下が喜ぶ姿を知り、その後、労組の委員長に成長されて、会社の繁栄を考えるまでになったのです。その第一歩が作業枠に予約を埋めるというシンプルなイメージだったのです。船井先生は「暗示力」と教えて下さいましたが、私は「イメージ」を出来るレベルから共有することがポイントと実感しています。人が育つには「イメージ」を共有することから始めると考えています。